

村井ひでき通信 第24号 ~政務官就任編~

衆議院議員 **村井ひでき** です。

まだまだ暑い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私、村井ひできは、お陰様で、8月上旬に行われた内閣改造において、内閣府大臣政務官の仕事に拝命しました。今後は、経済財政政策・社会保障改革など、政権の重要課題に政府の一員として直接携わることとなります。

本号では、内閣府大臣政務官の仕事の簡単な紹介と、上半期の活動報告をさせていただきます。

内閣府大臣政務官とは？

「政務官」とは、大臣・副大臣とならぶ政務三役の一つで、大臣を補佐し、また各省庁の仕事をリードすることが期待されています。さらに言えば、若手議員の登竜門としての側面もあり、いかに霞が関の官僚と信頼関係をつくりながら政策を前に進めるか、場合によっては、大臣と連携して霞が関の足らざることを埋めていくかを学びます。

「内閣府」と一言でいっても、その所掌は広範で、担当大臣も複数名置かれます。私が補佐するのは、茂木敏充 経済再生担当大臣と麻生太郎 財務大臣兼金融担当大臣の金融部分となります。**23名いる政務官の中でも、筆頭の政務官に位置づけられ、政権中**

枢に最も近いところで重要政策を担当します。

初当選から今年で5年目。責任ある立場を頂いたことに感謝し、これまで以上に精進して、国民の皆様のためになる政策に全力で取り組んでまいります。



第1回政務官会議の一コマ。左から、安倍総理、菅官房長官、野上官房副長官、村井。



霞が関勤務は、財務省退職以来となる6年ぶり。気合を入れて全力で臨みます。

経済政策・社会保障改革の司令塔として！

内閣府大臣政務官の仕事の大きな柱は、安倍政権の経済財政政策・社会保障改革の司令塔の役割を担う茂木大臣を支えることにあります。

実は、**次の1年は、経済財政政策の面から非常に重要な1年**です。まず、2019年10月に予定されている消費税率引上げの可否を判断する必要があります。また、2020年度の財政健全化目標(単年度黒字化)が達成できるか見極め、場合によっては新たな目標を策定しなければなりません。さらに、米国抜きのTPP11、日EU・EPA交渉の最終調整を行います。

また、**社会保障改革の面から言っても、非常に重要な1年でもあります**。まず、幼児教育・保育の無償化に向け、こども保険(仮称)の制度設計を丁寧に進める必要があります。そして、全世代型社会保障実現に

向け、非常に大切な6年に1度の医療・介護報酬の同時改定を行います。さらには、地域包括ケア実現に向け、第7次医療計画・介護保険計画を策定します。

今年1年間、この国の未来を決める重要課題が目白押しであり、こうした政策課題に、茂木大臣と共に全力で取り組んで参ります。



茂木大臣と共に、「人生100年時代」に合った制度づくりを進めます。



内閣府の職員の方々に対する政務官就任の挨拶式。結構緊張しました。

新しい金融行政の在り方を目指して！

政務官の仕事のもう一つの柱が、麻生大臣と共に金融行政を担当することにあります。

金融庁は、ここ数年麻生大臣・森金融庁長官の下、不良債権処理を目標として金融機関を厳しく監督する従来の「**金融処分庁**」の印象を、経済活性化を下支えする「**金融育成庁**」へと転換を図るための取組みを進めてきました。私も、金融担当の政務官として、金融機関が、金融庁ばかりを見て仕事をするのではなく、中小企業をはじめ日本経済の支え手にしっかりと金融仲

介機能を発揮してもらえる環境創りに務めて参ります。



麻生大臣からは、「若いんだから思う存分暴れていいぞ」とアドバイスを頂きました。



早速、役所からの怒涛の所管事項説明がスタート。まずは情報を頭に叩き込みます。

写真で見る 村井ひでき 2017年上半期の活動

小泉進次郎議員と二人三脚で

前号でもお伝えした通り、小泉議員とは、少子化対策・子育て支援・全世代型社会保障の実現に向け、「こども保険」を旗印に掲げて、二人三脚で戦ってきました。その結果、我々若手議員の提案が、ほぼそのまま政府の重要政策になるという画期的な成果を上げることができました。個人的には、自分達の想いが世の中になかなか伝わらずに反省したり、ベテラン議員との激しいやり取りで悔しい思いをしたり、学びの多い濃密な半年間でした。



副幹事長として

昨年8月に歴代最年少で副幹事長の職を頂いてから約1年。二階俊博幹事長の下、政策的にも政局的にも様々な仕事を経験させていただきました。「正論」を語らなければ政治家を志した意味がない。しかし、力がなければ「正論」は「空理空論」となる。そんなことを感じさせられる1年でした。写真は、党を代表して、記者会見に臨んでいる際の様子。様々な角度から迫る記者の質問に、一言一言気をつけながら、丁寧に答えています。



文部科学部会長代理として

今年の上半期も教育政策に取り組みました。特に、以前より指摘されていた教員の長時間勤務の実態が最新の調査で明らかとなり、時間外勤務が、小学校で平均70時間、中学校で平均93時間に上ることが分かりました。文部科学部会では、教員が、本来行うべき教育に関する業務に集中できる環境創りに向けて、教員の増員、副校長・教頭のサポート体制の強化、部活指導員などの外部人材の更なる充実などを進めることとしました。



都市農業の推進

この通信でも何度かお伝えしていますが、都市農地を巡る土地制度・税制度の改正が本格化します。都市部の緑を守るためにも生産緑地制度の拡充が不可欠との観点から、生産緑地の期限(30年)が切れても、10年刻みで現在の生産緑地同様の恩恵が受けられる仕組みや、賃借しても相続税の納税猶予を受けられるようにする仕組みづくりを進めています。写真は、山本有二農林水産大臣(当時)と齊藤健 現農林水産大臣に要請をした際のもの。



国会質問 ～最多5つの委員会に所属～

今国会では、自民党議員最多の5つの委員会(厚生労働委員会、財務金融委員会、憲法審査会、科学技術イノベーション推進特別委員会、原子力問題調査特別委員会)に所属。積極的に質問を行いました。詳細は、国会会議録システムで、「村井英樹」と検索の上ご覧ください。



国会見学 ～祝・3000名突破～

国会見学を随時開催中。既にのべ3000人を超える方にご参加頂き、好評を頂いております。政務官在任中は、通常の国会見学ルートに加えて、政務官室もご覧頂けますので、お誘い合わせの上、是非おいください。なお、運が良くと、こんな写真がとれることもあります！



地元課題への取り組み

初当選から5年目となり、地道に取り組んできた地元の案件がいくつか成果をあげることになってきました。写真は、今年2月に完成した農産物集出荷場(岩槻区黒谷)の式典の様子。農産物の鮮度を保つ真空予冷設備を有し、消費地に近いさいたま農業の更なる競争力アップに貢献します。



埼玉県野球協会会長

今年3月、埼玉県野球協会会長に就任しました。浦和の少年野球連盟育ちの私としては、ご恩返しの意味も含めて、野球の振興にも積極的に取り組んで参ります。写真は、都市対抗野球予選で挨拶する様子。なお、今年の都市対抗では、日本通運(さいたま市)が、見事に準優勝を飾りました。



家族が4人になりました!!

プライベートな報告となりますが、6月3日には二男が無事生まれて、家族が4人になりました。イヤイヤ期真盛りの2歳半の長男と、夜中も元気いっぱいな二男を前に、改めて世の中のお父さん・お母さんの大変さを実感する日々を過ごしています。家族に感謝しつつ、子育て世代の代表として、引続き国政に全力で取り組んで参ります。



【村井ひできミニプロフィール】

昭和55年さいたま生まれ。
浦和市立別所小学校、東京大学卒業後、財務省入省。ハーバード大学大学院修了。
平成23年財務省退官(主税局参事官補佐)。
平成24年12月第46回総選挙初当選(96,242票)。
平成26年12月第47回総選挙再選(105,760票)。
平成28年8月:党副幹事長(史上最年少)
現職:内閣府大臣政務官、埼玉県野球協会会長、埼玉県サイクリング協会会長
家族:妻・長男(2歳)・二男(3ヶ月)。37歳。

【地元事務所】〒330-0061さいたま市浦和区常盤9-27-9 TEL048-711-3241 FAX048-711-3242

【国会事務所】〒100-8981千代田区永田町2-2-1衆議院議員会館I-911 TEL03-3508-7467 FAX03-3508-3297

《発行》自民党埼玉県第一選挙区支部(岩槻区・浦和区・緑区・見沼区) 住所:〒330-0061さいたま市浦和区常盤9-27-9 【討論資料】